

千載一遇(センザイイチグウ)載は歳の意。  
千年に一度しか出会えないこと。 [例]

千載一遇の好機

戦戦兢兢(センセンキョウキョウ)戦は戦慄<sup>センリツ</sup>  
で、ふるえおののくこと。兢はつつしむこと。恐れつつしむあまりふるえおののくこと。今は“戦々恐々”と書くが、戦争が恐ろしくてふるえるのではない。

前代未聞(ゼンダイミモン)今までに聞いたことがないの意。たいへんなできごとやあきれた事に使う。

千篇一律(センペンイチリツ)千篇の詩が皆同じ調子だという意で、どれもこれも変わりばえのしないことを言う。

造次顛沛(ゾウジテンパイ)造次はとっさの間、顛沛はつまずいて倒れる間。きわめて短時間の意。

大願成就(タイガンジョウジュ)大きな願いが成し遂げられること。仏教の大願は衆生を救うことである。大は呉音。

大器晩成(タイキバンセイ)晩は早<sup>はやい</sup>の反対(遅は速<sup>はやい</sup>の反対)。大人物は早熟でなくて晩<sup>おそ</sup>く成熟するという意味。漢音は大<sup>タイ</sup>。

泰山北斗(タイザンホクト)泰山は中国の名山、北斗は北斗星。人に指針を与え、人に仰がれる者のたとえ。略して“泰斗”とも言う。

多岐亡羊(タキボウヨウ)岐は岐路(分かれ道)。道が多く分かれていて、逃げた羊をどう追うべきか迷ってけっきょく失う、の意で、学問の道があまりにも

多方面に分かれていて、真理を見失いやすいことを言ったもの。

単刀直入(タントウチョクニユウ)単身刀を持って敵陣に入り、直接大将に切りかかること。前置きなく、直接要件を切り出す場合に用いる。 [例] 単刀直入にお伺いしますが

魑魅魍魎(チミモウリョウ)種々の妖怪変化<sup>ヨウカイヘンゲ</sup>  
(おばけ)を言う。(基礎編末の項参照)

朝三暮四(チョウサンボシ)猿<sup>さる</sup>に与える果実を朝三、暮れに四つにしたら怒ったので、朝四、暮れに三つにしたら喜んだという故事。目前の利にとらわれ、大局に気がつかないこと。また、人をうまくごまかす話術を言う。